

### 第3回札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会専門部会 (環境、都市空間分野) 会議録

日時：令和4年7月5日(火)10時開会

場所：かでの2・7 10階1050会議室(札幌市中央区北2条西7丁目)

出席：岡本委員、椎野委員、高野部会長、牧野委員、山中委員

事務局：浅村政策企画部長、中本企画課長、田中企画係長、滝口企画担当係長

#### 1. 開 会

○事務局(浅村政策企画部長) 札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会の専門部会を開会いたします。

私は、事務局を務めております札幌市まちづくり政策局政策企画部長の浅村でございます。

皆様におかれましては、お忙しい中をご出席いただきまして、ありがとうございます。

5月に開催しました前回の専門部会では分野横断的な施策についてご意見を頂戴したところでございます。これについては、ほかの部会での議論も含めて取りまとめを行っておりまして、9月の全体の審議会でご確認をいただきたいと思いますと考えております。

今回は、基本目標に紐づく施策のうち、環境分野及び都市空間分野におきます施策についてご議論をいただければと思います。

なお、本日は、この基本目標に関係の深い部局の職員も傍聴させていただいておりますので、ご了解をいただければと思います。

それから、全部で8分野あるうち、今日は2分野についてご議論をいただきますが、それ以外の6分野の施策についても参考資料をお配りしておりますので、必要に応じてご参照いただければと思います。

この分野ごとの施策と分野横断的な施策で戦略編を構成することにより、戦略ビジョンをより立体的にしていきたいと考えています。

それでは、本日もよろしくお願いたします。

○事務局(中本企画課長) 同じく事務局を務めます中本です。どうぞよろしくお願いたします。

本日の専門部会ですが、村木委員がご都合によりご欠席ということで、5名の皆様にご参加をいただいております。オンライン参加はなしです。

それでは、この後の議事進行については、高野部会長にお願いしたいと存じます。

よろしくお願いたします。

## 2. 議 事

○高野部会長 皆さん、おはようございます。

湿度が大変高く、雷雨が来そうな感じがする中でありますが、どうぞよろしく願いいたします。

今お話がありましたように、今日は、環境と都市空間という専門分野に加え、生活・暮らしの中にあるバリアフリーにも非常に密接に関係するので、その辺についても少しご議論をいただこうと思っております。

分野の内容に入る前に、まず、戦略編における分野ごとの施策の位置づけ等についてご説明を頂戴したいと思います。よろしく申し上げます。

○事務局（中本企画課長） 各分野の検討にお入りいただく前に、本日の審議事項の概略について資料1に基づいてご説明をさせていただきます。

資料1-1をご覧ください。

戦略編の策定に向けてという資料になります。

前回は簡単にご説明を申し上げましたが、まちづくり戦略ビジョンの戦略編につきましては、全部で大きく3章構成にしたいと考えております。

前回は第1章の分野横断的に取り組む施策についてご議論をいただきましたが、今回は、第2章のまちづくりの基本目標ごとの施策として、赤枠をつけました環境分野と都市空間分野についてご審議をいただきたいと思っております。主に青枠で囲っております基本目標の達成に向けて取り組むべき施策についてと施策を推進するに当たっての効果的な手法についてご意見をいただけますと幸いです。

また、資料の下段にイメージ図を載せてございます。これは札幌市の計画体系を表す参考図面となります。既に答申をいただいておりますビジョン編と今日ご審議をいただく戦略編、さらに、今後はその下にある中期実施計画を策定する予定となっております。

右側の表にそれぞれの計画の解説とその下段に例を掲げております。例えば、ビジョン編では、安心して子どもを生み育てられるまちという達成目標を設定したとして、戦略編では、この目標を達成するための数々ある施策の中の一つとして、例えば、ワーク・ライフ・バランスの推進に向けて、企業等の働きやすい職場環境づくりを支援しますという施策が設定されます。中期実施計画では細かい事業を掲載することにしておりまして、例えば、企業に対し、育児休業取得者が生じた際の助成を行いますという具体的な事業が並ぶということです。

本日は、真ん中の戦略編についてご議論をいただきます。ただ、これをあまり意識するとご発言が難しくなる側面もあろうかと思っておりますので、参考程度にこういう体系になっているということを頭の片隅に置いていただけますと幸いに存じます。

続きまして、資料1-2については、既にご答申をいただいているビジョン編の振り返りになります。本日のご議論の中でビジョン編を振り返る場面が生じた際に参考までにご活用いただければと思います。

資料1-3につきましては、ビジョン編の本文のうち、第4章のまちづくりの基本目標の部分を一通り抜き出してきたものになります。こちらをご審議の最中に振り返る必要が生じた際にご参照をいただければと思います。

資料1の説明に関しては以上です。

○高野部会長 資料1-1にありますように、戦略編の策定に向けての中で、今日は基本目標ごとの施策ということで、環境分野と都市空間分野について、下の図にありますように、まちづくりの基本目標の達成に向けて札幌市が取り組む施策や手法ということで、そういう事柄について、次の資料で出てまいりますので、不足している点等をご議論いただくのが今日の目的であるということでした。

進め方について何かご質問等はございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○高野部会長 それでは、資料2についてご説明をお願いいたします。

○事務局(中本企画課長) 資料2は、環境分野でございます。

環境分野では、ビジョン編において、基本目標16と基本目標17の二つの目標を設定していただきました。

この資料の見方ですが、基本目標とそれに属する目指す姿はビジョン編と連動しておりまして、目指す姿ごとに行政が取り組む施策について丸で箇条書にして掲載をしております。さらに、その中から、特に今後10年で充実強化していくことを赤枠の中に特出して事柄を抜き出しております。

この資料の中身に入る前に、資料にはないのですが、これまでの10年がどうであったか、環境分野について振り返りをさせていただければと思います。

こちらは、ビジョン編の第2章のときに主にご審議をいただいた内容になります。

これまでの10年、札幌市においては、循環型社会の実現に向けた取組の推進ということで、ごみの減量やリサイクル、廃棄ごみ量の削減を行いまして、政令指定都市の中でもトップレベルの廃棄ごみ量の少なさを実現するなど、一定程度の成果が見られております。

低炭素、省エネに向けた取組として、節電や省エネルギー機器の導入促進、都心部におけるエネルギーネットワークの整備など、いろいろなことに取り組んでまいりました。

一方で、気候変動などに伴う地球規模での環境保全の動きが大きくなってきて、SDGsの動き、また、脱炭素の早期実現に向けた取組が求められております。

そこで、今後10年でどう転換させていくかですが、道内各地域との連携の下、道内の豊富な再生可能エネルギーや資源を活用しながら、低炭素ではなく、脱炭素社会の実現に向けて先駆的に取り組む10年になっていくだろうと考えてございます。

こちらは、ビジョン編の基本目標にも表れておりまして、現在のまちづくり戦略ビジョンの基本目標では、資源やエネルギーを有効活用するまち、市民が環境について学び、行動するまちという目標を設定しておりますが、今回設定していただいた環境分野の目標は、

世界に冠たる環境都市ということで、まさに札幌が世界をリードしていくのだという決意を表明させていただいております。

また、みどりづくりに関しましても、小金湯さくらの森などの公園の整備などを進めてきておりますが、都心のみどりの不足や、みどりがもたらす健康面での効果というものが再認識されてきました。

今後10年は、P a r k - P F I や森林環境譲与税など、新たに創設されたものなども活用しながら、防災、減災、地域振興などにみどりが持つ様々な機能を効果的に発揮させるような取組を進め、みどりを積極的に活用していく10年間に転換を図る必要があるだろうという認識です。

そのようなご議論を踏まえまして、資料2に環境分野の施策を整理いたしました。

まず、基本目標16の「世界に冠たる環境都市」の目指す姿1として、「脱炭素社会の早期実現に向け、更なる省エネルギー化に向け、北海道・さっぽろ圏の豊富な再生可能エネルギーの導入拡大や新たなクリーンエネルギーである水素エネルギーの活用のほか、ゼロエミッション自動車の普及が進んでいます。」に向けた施策についてです。

まず、丸の一つ目ですが、省エネルギー化という観点から、環境性能の高い建築物の普及拡大に向けて、Z E B、Z E H と呼ばれる高効率な建築物などに対する支援や光熱費等の見える化などを促進するほか、丸の二つ目ですが、家庭や事業所等における省エネルギー機器の普及拡大に向け、省エネルギー機器への転換促進や導入支援などを行うことを掲げてございます。

一つ飛ばして、丸の四つ目ですが、再生可能エネルギーの導入拡大という観点から、市民、企業などが使用する電力の再生可能エネルギー比率を高めるため、太陽光発電設備の導入支援や水素サプライチェーンの構築などに向けた取組を推進することを掲げています。

下から二つ目の丸では、未利用エネルギーの利活用という観点から、市有施設におけるエネルギーの有効活用を推進するため、熱エネルギーや水力エネルギーなどを積極的に利活用することを掲げました。

最後に、一番下の丸ですが、自動車走行などの移動時における二酸化炭素排出量を削減するため、ゼロエミッション自動車の普及促進や水素ステーションの整備などを進めることを掲げたところです。

その他の施策は記載のとおりです。

次に、目指す姿2の「エネルギー利用に関する世界トップレベルの取組が展開され、高い環境性能と強靱性を兼ね備えた都心が確立されています。」に向けた施策についてです。

丸の一つ目では、都心の脱炭素化、強靱化に向け、再開発等の機会を捉え、エネルギーセンターや熱導管などのインフラ整備を促進し、エネルギーの面的利用を拡大するとともに、建物の更新時には、建物の省エネルギー化や地域熱供給の活用、分散電源の整備を促進することを掲げております。

丸の二つ目では、エネルギー利用の最適化に向けて、建物へB E M S と呼ばれるビル・

エネルギー・マネジメント・システムの導入を促進するとともに、エネルギー関連データを活用し、エネルギーセンターを核としたAEMSと呼ばれるエリア・エネルギー・マネジメント・システムの導入の促進を掲げてございます。

次に、目指す姿3の「誰もがごみの減量・再使用・リサイクルなどに積極的に取り組むとともに、近隣地域と資源を補完し支え合う地域循環共生圏の形成を含めた循環型社会が構築されています。」に向けた施策についてです。

丸の二つ目ですが、地域循環共生圏の構築を見据え、地域資源の利用を促進するため、道産木材の利用促進や広域的なエネルギー連携などを行うほか、丸の三つ目ですが、持続可能な収集・処理体制を確立するため、清掃工場の更新や広域での廃棄物処理などを推進することを掲げました。

その他は記載のとおりでございます。

資料の右上に移っていただきまして、目指す姿4の「誰もが経済・社会とのつながりを理解しながら環境保全や気候変動対策などに取り組んでおり、ライフスタイルの変革や技術革新が進んでいます。」に向けた施策についてです。

丸の一つ目ですが、誰もが環境保全や気候変動対策などに取り組むため、あらゆる世代におけるSDGsを意識した学びの推進やライフスタイルの変革を促進するほか、丸の二つ目ですが、経済と環境の好循環を創出していくため、環境に関する新技術の開発への支援を行うことを掲げました。

続いて、基本目標17の「身近なみどりを守り、育て、自然と共に暮らすまち」に属する目指す姿1として、「森林、農地、公園や河川などの保全・創出・整備により、豊かなみどりのあるまちの中で、誰もが健康的で幸福感の高い生活を送っています。」に向けた施策についてです。

丸の一つ目ですが、暮らしに身近なみどりや水辺環境のさらなる魅力、利便性の向上を図るため、新たなみどりや良好な水辺空間の創出、保全を行うとともに、保育・教育施設における緑化の推進や地域の緑化活動への支援などを行うとともに、丸の二つ目ですが、良好な都市環境を維持、創出するため、市街地を取り巻く森林の整備や地域の特性に応じた農地の保全、活用を推進するとともに、森林整備や農地保全などに係る人材育成、担い手の確保に向けた支援を行うことを掲げております。

次に、目指す姿2の「森林や公園などの身近なみどりが自然との触れ合いや人々の交流の場に加え、防災、経済活動、水源涵養、二酸化炭素の吸収などの多面的な機能を発揮し、都市の魅力やレジリエンス『自己回復力・強じん性』を高めています。」に向けた施策についてです。

丸の一つ目では、みどりに触れ合う機会を創出するため、公園利用やみどりづくり活動への参加を促進するとともに、自然歩道等の環境改善などを行うことを掲げております。

丸の二つ目では、防災機能、経済活動、にぎわいの創出など、みどりが有する多様な機能や魅力を発揮するため、公園内への民間活力の導入を推進するとともに、官民協働によ

る雨水浸透緑化等の取組を行うことを掲げたところです。

最後に、目指す姿3の「生物多様性が広く理解され、地域本来の生態系が維持された中で自然と人とが共生しています。」に向けた施策についてです。

丸の一つ目ですが、地域本来の生態系が維持された社会において、安心した市民生活を送るため、ヒグマ等の市街地への侵入抑制策などを行うほか、丸の二つ目では、自然と人とが共生する社会の実現に向け、生物多様性に関する普及啓発を推進するとともに、円山動物園における教育機能を強化することを掲げました。

環境分野の説明については以上でございます。

○高野部会長 環境分野は目標が二つありまして、「世界に冠たる環境都市」と「身近なみどりを守り、育て、自然と共に暮らすまち」ということです。

ただ、内容が少し異なるので、まず、基本目標16の環境都市について皆さん方からご意見をいただければと思います。目指す姿は四つございますが、どこからでも結構でございます。

○山中委員 目指す姿4は、ビジョンからあまり進んでいないというか、具体的な行動が見えないところをかなり気にします。世界に冠たるという意味は、ハードウェアということもありますけれども、住んでいる人自らが気候対策や環境保全、生物多様性について学び、行動するということですよ。

では、どういう行動があるかです。ここにも書いてあるとおりで、もともとのほうにはフェアトレードという言葉が入っていますけれども、北海道や札幌だけではなく、世界の生物多様性や世界のCO<sub>2</sub>削減のために我々が消費行動を取り、SDGsの達成のため、途上国の人たちをフェアトレードなどで応援するというような意味合いがあるのですが、それが、この資料ではほとんど見えなくなっているような気がします。

世界に冠たるというのは、世界のことも気にしているというわけで、世界のことを考えた札幌市であるというような意味合いを入れるべきです。目指す姿の1と2に書いてあるようなことをやれば世界に冠たるかということ、それだけでは違うと思いますので、ここにはそういう世界の視点を入れていただければと思います。

また、学びの推進、ライフスタイルの変革と言っていますが、もう少し市民の声をちゃんと受け止めてほしいと思います。札幌市は、SDGsに関するユースの声を既に取り上げているわけですから、それを後押しするようなものを入れて、市民が環境をつくり出すのだとしていただきたいと思います。例えば、市民が環境政策を札幌市に提言できるようなところまで後押しをしてくれるといいかと思います。「市民が」のところは読まないことにしたとしても、市民が応援するような施策を入れるべきです。

もう一つは、目指す姿3のところですよ。

確かに、地域循環共生圏とあり、連携を取ると言っているのですが、まずは「そういう場をつくりましょう」をしっかりとやり始めることがやはり重要で、地域循環共生圏について、行政同士でもちゃんと相談や話し合いをしますということですよ。相手側がいま一

つ乗り気ではないとしたら仕方がないでしょうが、札幌市はそれをリードしていかなければいけないということがちょっと読みづらいと思います。

○事務局（中本企画課長） まさにご指摘のとおりかと思います。今回、世界に冠たるという目標を設定させていただいて、私も冒頭に申し上げましたけれども、それに見合う施策がちゃんと表現できるように検討を進めていきたいと思っています。

○高野部会長 ほかにいかがですか。

○岡本委員 今お話のあった世界に冠たるというのはとても重要で、賛同します。

公共交通は僕の専門ではないですが、公共交通の利用、あるいは、都市空間分野にも入っていたと思いますが、歩いて過ごせる、歩いて使いやすいまちを推進することが本来的には重要と思っています。水素にすれば車を使っても全然大丈夫という考え方にも読み取れますが、そもそも車に乗らなくても便利で暮らしやすいまちは札幌の中心部であれば実現できると思います。もしかしたら道路を全部潰してみどりにするぐらいの勢いでお話を挙げてもいいのではないかと本当は思っています。

公共交通や路面電車、地下空間がきちんと整備され、自動車で来ること自体が必要のないまちを目指すのが望ましいと考えています。少し実現の難しい話をしているのかもしれないですが、水素だから車にばんばん乗ってもいいですよというのは違う気がします。

もう一つ、どうしてもこういう季節にこういう会議をするからかもしれないのですが、雪の話が載っていないようです。これだけ雪が降るところでこれだけの人口を抱えているのは世界の中でも札幌しかないと言われてます。どれだけ雪の処理にエネルギーを使っているか、前回か前々回にも少しお話ししてくださったと思うのですが、解けてしまうものにエネルギーを使っているということに関し、どう対策していくのかも重要な点です。

都心部であれば常にロードヒーティングをして消し去っていますが、その方法で薄く広く効率的に回しているという話なのか、もう少し上手に雪を夏場にも使えるような話も出てくるのか。どちらかという、雪は邪魔者で、労働力も少なくなっていく中、重油をたくさん焚いて重機を回してという状況から抜け出せないのは残念な気がしています。そこにも何か方向性を示しておくことが必要なのではと思っています。

○高野部会長 重要なご指摘ですね。

1点目の交通環境教育についてですが、札幌市は割と全国に先駆けて小学校の中に既に取り入れていただいているので、そこをもっと拡大していくという発想もあるかもしれませんね。

2点目の冬の雪の問題についてです。雪を処理するのにCO<sub>2</sub>を相当排出しているということが一方、最近、融雪槽の補助はもうないのですよね。枠がなくなったのでしょうか。分かりませんが、考え方ですよね。一部のところでは地下水で雪を解かしているところもあるので、世界に冠たるというキーワードと関連させますと、雪問題について、環境の面から考え、世界に冠たるやり方をどう出すか、今、岡本委員がおっしゃったように、すごく重要なところですよ。

農業の関係では保冷への利用、あるいは、冷暖房への利用など、そういうこともやり方によってはあると思うのですが、施策としてどのぐらい織り込めるかについてはいかがですか。

○事務局（中本企画課長） 1点目の公共交通の話であったり、雪の話であったり、分野が散っていて見えなくなってしまうものもあろうかと思いますが、最終的にどういう表現にするかは考えたいと思います。

一方、解けてなくなる雪にどれだけエネルギーを使っているかという視点についてですが、まずは冬をどう暮らしやすい状態にするかに目が行っていて、そこまで議論が追いついていないところも正直ございます。どこまでできるかはありますが、世界に冠たるに恥じないようなしっかりとした議論をしっかりとしていきたいと思います。

○高野部会長 牧野委員、お願いします。

○牧野委員 環境についてですけれども、環境問題というのはすごく時間がかかり、すぐには変えていけないものだと思うのです。例えば、2030年を目標にしたとしても、あと8年ですから、今、12歳ぐらいの子が成人になる頃です。

昨日、中学校の授業に呼んでいただいて、子どもたちや先生といろいろな話をしたのですが、先生は、今、学校の授業でSDGsについて子どもたちに理解してもらうための時間を設けているけれども、子どもたちはびんときていないのか、理解がなかなか難しいようだという話をしていたのです。

これには基本目標がたくさん出ていますけれども、一番重要なのは子どもたちの意識ではないのかなと思うのですね。そして、子どもたちに知ってもらうためには関心を持ってもらうことが必要でして、面白そうだなと思って、それに注意を持ってもらうことがこれからは必要なのではないかなと思います。

脱炭素の問題に関してもそうですし、SDGsに関連し、環境を自分たちの意識で変えていくということも大事です。そのとき、どうしたら子どもたちが関心を持ってそういうことに関わってくれるのですが、例えば、道の駅のスタンプラリーみたいなものがありますよね。そういうものを全部制覇したら達成感が味わえるようなものはどうでしょうか。あるいは、札幌市のまちづくり子どもサポーターみたいなもので、自分たちが受けてみようと思った勉強会を一つ一つ制覇していくことによって、いろいろな知識を得て、自分たちも関心を持って関わっていけるようにするなどです。

このように、子どもたちの意識をつくることです。意識が変わらないと環境も変わっていかないと思うのですね。でも、全部に共通して考えられるのは、次世代の子どもたちの意識をつくることでして、施策にもそういうことを取り入れていただきたいなと思います。

○高野部会長 ほかにいかがですか。

○椎野委員 私は、車の利用というか、その将来の在り方についてです。この辺りは高野部会長のご専門なので、あまり私が出しゃばることでもないかもしれませんが、車については、ゼロエミッション自動車など、テクノロジーを使った技術開発が求められて



いる一方、交通システムをどう最適化していくかも昨今の都市政策では非常に重要だと思います。

具体的に言いますと、公共交通ではオンデマンド交通の普及促進です。ニーズに最適化した省エネルギーの交通システムについて、これは都市空間分野と関連してくるかと思いますが、札幌市において施策を検討されておられるとは思いますが、今後はこういったエネルギー政策とも紐づけて考える必要があるのではないかと思います。

また、そのシステムをつくるに当たってはICT技術が必要になってくると思いますので、経済分野とも関連してくるかと思いますが、ただ、テクノロジーをどうするというより、人を中心に見たときに、その人がアクセスしやすいICT環境をつくることによって結果として環境負荷の低減に寄与するという人を中心にした見方も取り入れてもいいのかなと思いましたので、ご検討をいただければと思います。

○高野部会長 公共交通については、都市空間分野の目指す姿4にも書いてあり、どちらがどうこうということではないと思いますので、環境というファクターを含め、表現を考えていただければと思います。

もともと公共交通をやっている我々の研究者としては、一昔前になりますか、自動車から公共交通への転換を旗印に一生懸命やってきたところがあります。今はそんな単純な議論ではなくなっているところがありますが、その辺はぜひ書き込んでいただきたいと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○牧野委員 基本目標17の目指す姿3の充実強化することに円山動物園における教育機能の強化とありますよね。

質問ですが、円山動物園の隣に、それこそ生態系の縮図みたいな森のゾーンがありますよね。そういうところも含めて活用するということなのでしょうか。動物がいるところだけ、動物園だけということなのですか。

○事務局（中本企画課長） 現時点では施策として一旦並べただけで、まだそこまでの情報は持ち合わせていないところです。もしご意見やご指摘があれば、ぜひいただければありがたいなと思います。

○牧野委員 札幌にこんなところがあるのかと思うようなゾーンに札幌市立大学の先生に連れて行っていただき、いろいろとお話を聞いたことがあります。見てびっくりして、これは子どもたちに見せたいと思いました。

札幌は知らないうちにどんどんと都会化してきて、みどりや自然に触れることがなくなっていますし、私たちが子どもの頃にいた虫など「もあまり見かけません。でも、そこに行ったときにすごい感動や驚きがありましたし、自然に触れることはすごく大事だと思ったのです。ただ、あその場所に人がどこどこ入るとあの自然も壊されるのかもしれない。でも、ある意味では貴重なゾーンですから、何かの形で役立てることができれば次につながるのではと思いました。

○高野部会長 基本目標16の環境都市から今度は基本目標17のみどりに移ろうと思うのですが、基本目標16についてほかに追加のご意見はありますか。

○山中委員 先ほどの話とダブるのですが、牧野委員からあったように、若者の教育というのか、若者の声をちゃんと聞こうというのをもう少し入れてもいいのかなという気がします。

それは若者が次世代を担うからという意味もあるのですが、気候正義——クライメートジャスティスという言葉があるのですが、今の気候変動をつくり出したのは大人(現世代)の責任で、罪を犯した人が償うのは本人(現世代)なのであって、次世代の人が償わなければいけないのですかということをしつかりと意識しなければなりません。

つまり、若者が次世代を担うから、その教育をちゃんとすべきだということも、もっともなのですが、大人も学ばなければいけなくて、子どもたちに今の環境を渡してはいけないという意味合いもあります。

ですから、学校教育もありますが、大人の学びも必要で、若者の声も含めて、大人の声を聞くようなことができる場をつくれればよいということですね。私たちは若者ではないので、若者のように話すことは難しいかもしれませんが、そうした場が必要だということですね。

また、ほかのところで大学という話が出ています。しかし、大学ではなく、高校だと前回私が発現したように、札幌市にはすばらしい市立高校を中心とする仕組みがあるので、高校生への教育もかなり強く書き込んでもらいたいと思います。

先ほど基本目標2を見ましたけれども、一般的な内容に対する、子どもの学びの保障になっているのです。でも、ここでは環境都市に対する若者の(環境や持続可能な社会に対する)学校教育の学びを入れるという視点です。これは、目指す姿4を増やせるネタになるという提案です。

○高野部会長 ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○高野部会長 続きまして、「身近なみどりを守り、育て、自然と共に暮らすまち」に移ります。

目指す姿が三つありますが、いかがですか。

○椎野委員 先ほど話題に出た目指す姿3に関し、牧野委員からご指摘をいただいたヒグマ等の市街地への侵入抑制策についてです。

昨年、市街地にヒグマが出て、人がけがをした事故があり、それで市民からも対策をきちんと評価してくださいというご意見が多く寄せられたかと思うのです。ヒグマもそうですが、野生生物(ヒグマ等)のほうがいいかなと思いました。

ヒグマが出ると、どうしてもヒグマばかりに注目されがちですが、エゾシカがまちに出てきて農業被害をもたらしたりすることもありますし、キタキツネには寄生虫のエ

キノコックスを持っている個体もいて、餌やりによって公園に居着いてしまうということもあり、2年ぐらい前には清田の公園でそういうニュースがあったかと思います。

個体によっては寄生虫を持っていて、そのふんを吸引したりすると卵が体内でふ化し、肝臓に移動して病気になってしまい、手術をしないと死に至るといった恐ろしいものです。ですから、円山動物園にもキタキツネはいません。

ヒグマが注目されたというのは一つの機会として、野生生物との付き合い方といいますか、どう共存していくか、その情報を正しく伝え、みんなで考えていくことが大事かなと思います。それに、エゾリスだったら喜びますよね。エゾリスが近くに來たら、うちの学生なんかはとても喜びますけれども、一くくりに野生生物とどう付き合うかという捉え方のほうがいいかなと思いました。

また、円山動物園という具体的な固有名詞が出ているのは、協定か何かを今後結んでやっていかれるということなのですか。こう書いてしまうとここだけになってしまうように思ったのです。でも、自然保護活動や環境教育を行っている団体は市内にたくさんあるので、例えば、こういうものという位置づけとしてはどうでしょうか。固有名詞を出していただいてもいいと思うのですが、いろいろな団体に協力をいただくという書き方のほうがいいかなと思いました。

それから、先ほど山中委員から大人の学びも必要だという非常に重要なキーワードをいただきましたが、基本目標17でも大人の学びは非常に大事だと思います。牧野委員から子どもの環境教育が非常に大事だというご提案があったのですが、結構前から言われているのですが、今、親世代の自然体験が物すごく乏しくなっています。おじいちゃんやおばあちゃんの世代は、森や川、山などで遊んだのだけれども、今の親世代はそういう自然体験が乏しいまま育って親になっており、その親に子どもが育てられているので、子どもも自然体験の機会や環境教育に対して理解が進まないということがかなり前から指摘されています。

一方、その親世代も、子どもができると、子どもと一緒に自然の中に入っていきたい、キャンプがしたい、森で遊びたいというニーズは出てきていますし、特にコロナ禍で人と距離が取れるということから都市近郊にキャンプ場が新しくできており、自然への意識が非常に高まっているのではないかと思います。そういう機会を捉えつつ、まず、子どもを対象に自然体験や環境教育を行えば、親も一緒にそれに参加するので、結果的に親と子が一緒に学んで正しい知識や対応を身につけることができるのではないかと思いますので、単にキャンプを楽しむのではなく、野生生物との付き合い方や自然との共存の仕方を学べるような機会をつくっていきけるといいのかなと思います。

具体的に言うと、例えば、森に入っでごみをそこで捨ててしまうと、野生生物がそれを食べて、人の食べ物の味を覚えてまちに入ってくるということもあるのですね。

また、ヒグマに関していえば空間の管理です。都市と自然の間、いわゆる里地や里山、耕作放棄地、あるいは、河川で草がぼうぼうとなっていて、ヒグマがそこに隠れながら移

動できるような状況があるわけですが、市民の力も借りながらきれいにしていく、整備をしていく、草刈りをしていくなど、人の手が加わると野生生物は入ってきづらいですし、そういう機会も減ってくるかと思います。ここに文言として入れるかどうかは別ですが、今後はそうしたことも必要になってくるのかなと思いました。

目指す姿1の充実強化することの中に農地保全とありますが、空間をきちんと管理することで野生生物とうまく共存できると思いますか、野生生物との事故を予防する対策として、人がそこに関わっていて、適正に管理をするということが今後は必要かなということですか。

○高野部会長 ほかにいかがですか。

○山中委員 ヒグマが行政区域を知っているわけではないので、行政区域間を移動します。それから、石狩浜において、ごみが散らかっていたり、バギーが走っていたりする環境問題でも、札幌市の住民が起こしている可能性もあります。

先ほど地域循環共生圏とあったけれども、こちらにもその考え方を入れたほうがよくて、周辺市町村と対話をしますみたいなことがこの箇所でもあったほうが良いような気がします。

○高野部会長 入れ込み方についてはご検討をいただきたいと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○牧野委員 この中では、公園や自然など、身近なみどりについてうたっているのですが、暮らしとみどりといいますか、暮らしの中のみどりです。今、温暖化というか、気温がどんどん高くなっている中で、グリーンカーテンなどのみどりを活用して、日差しの入り方や温度環境を変えてみるなど、暮らしに取り入れられるみどりもたくさんあると思うのです。

ここに暮らしに身近なという言葉も入っていますけれども、もうちょっと具体的に、自分の生活の中にみどりをもっと取り入れて育てていくということもこれから促進していただければと思いますので、それも伝わるように織り込んでいただければいいと思います。

○高野部会長 事務局からのお答えは後にして、皆さんからどんどんと意見を出していただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○岡本委員 身近なみどりと書いているところは、市街地の外でボリュームのある緑のイメージに関する内容が主になっているので、まちなかのみどりについてももう少し触れられないかと思いました。

緑保全創出地域制度がかかっている、敷地規模にもよりますが、緑化率の確保などがあり、それを守っての緑化率の確保は周りからみどりが見えやすい植え方を誘導する建付になっています。しかし、それ以外にも、「屋上緑化をしてね」「建物の蓄熱を少し低減してね」など、環境負荷低減の側面もあると考えています。なので、大規模な開発や再開発、あるいは、建て替えのときをお願いする緑化率の設定に関しては、みどりが豊かに見える

ということと環境負荷を抑えるということ、もしかしたらもう一つぐらい側面があるのかもしれないですが、みどりが果たせる役割を幾つか整理してはいかがでしょう。これはこういう意味を持っている緑化です、でも、この側面からはこういう意味を持っていますなど、まちの中で緑化を促すに当たって、みどりが担える役割をきちんと整理して伝えられると、緑化するほうも、やってよかった、みんなのためにやりたいという話になると思うのです。

ですから、単に緑化率をクリアしてねという言い方になりかねないのですが、その意味を語れるような伝え方にして、その側面に環境負荷軽減等も含まれてくるので、伝わり方や仕組みの仕立て方を考えていただくのが大切と思います。

○高野部会長 私からです。

P a r k - P F I がキーワードとして目指す姿 2 の充実強化することを書いてありますよね。大通公園という特殊な公園は、雪まつりをはじめ、まさに民間活力を導入しながらいろいろなことをやっていますので、その経験を踏まえてと思います。

P a r k - P F I というのは公園のほうでは新しいキーワードですが、札幌市は今までも大通公園でいろいろなことをやってきたではないですか。その経験を踏まえると、P a r k - P F I も一つの手法ですが、大通公園の今までの経験と歴史を踏まえた上での公園の在り方を札幌市ならもっと考えられるのではないかなと思います。

もう一つ、新たなみどりの空間について言うと、知事公館の跡地の話があるかと思いますが。それから、都心のみどりのほうの委員会でも話したのですけれども、北大植物園の位置づけです。これはいずれも人のものですが、すごく重要で、市民も期待していると思うのです。植物園にはあまり期待していないかもしれませんが、植物園も、400円を払い、ここから入って出てこなくてはいけないとするのではなく、どこから入ってもどこから出てもいいようにするなど、まさにP a r k - P F I のようなものを使って豊かな施設をつくれると思うのです。

それを書き込むことはまだできないのですが、市民は非常に期待していて、特に知事公館の跡地利用についてはすごく期待しているので、それが匂うような表現が何か必要かなと思いました。

基本目標 17 のみどりについてほかにいかがでしょうか。

○椎野委員 一つだけ追加で、目指す姿 1 についてです。

誰もが健康的で幸福感の高い生活を送っていますとあるのですけれども、その下に健康に紐づくような内容が明示されていないように思いました。例えば、高齢者の方、高齢者でなくてもいいのですが、今、コロナ禍で在宅時間が増えていますよね。でも、家にいるのではなくて、外に出かけたくなるようなまちの在り方です。特に、緑地や遊歩道など、歩いていて心地のよい空間を創出することによって人の外出を促す、そうしてある程度長時間歩くという生活習慣を身につけることによって健康になっていく、健康寿命を延伸するというほかの分野ともリンクするような書き方がここに加わってくると、より健康的と

いう具体的なイメージが生きてくるかなと思います。

これはハード面の整備もそうですし、市民を交えてお散歩マップみたいなものをつくるなど、細かくはそういうこともあるかもしれませんが、人の視点に立って外に出かけたくなるようなまちづくり、みどりの環境づくりをやっていくというような内容を盛り込めるといいかなと思いました。

○高野部会長 ほかにございませんか。

○岡本委員 先ほどの高野部会長の知事公館の話についてです。

知事公邸等のあり方研究会に入っていたので、やっぱり気になります。その隣には道立近代美術館があって、その間の道路が市道ですから、札幌市と調整ができれば相互につながるという展開もできるかもしれないという話もありました。そういう話が道庁側から来ているのかどうか気になります。また、そこの間の道路をずっと南に行きますと札幌医大があって、結局、そこを抜けられないので、東西のどちらかにずれなければいけないのです。

そこも調整していただいて、みどり豊かな空間が2街区でつながるといところまで実現できたらいいかなと思っていたので、発言しておきます。

○高野部会長 基本目標17についてほかにかがですか。

(「なし」と発言する者あり)

○高野部会長 続きまして、資料3のご説明をお願いします。

○事務局(中本企画課長) 資料3は、都市空間分野になります。

まず、この資料にはございませんが、これまでの10年がどうであったか、そして、これからの10年に触れさせていただきます。

ビジョン編の第2章では、これまでの10年について具体的な事例を挙げさせていただきました。チ・カ・ホや北3条広場の整備、さらに、民間再開発の進展などにより、都市機能の集積や、地上、地下の歩行者の回遊性が都心部でも増したこと、拠点という意味合いでいくと、新さっぽろ駅周辺の市営住宅跡地の活用や苗穂における駅の橋上化や北ガスアリーナの整備等があります。

都市基盤としましては、二条小学校などをまちづくりセンターや地区会館などと併せて整備したり、白石区役所が複合庁舎化したりするなど、効果的、効率的な再配置の推進という具体的な動きが10年間で進んできました。

都市空間分野に関しては、次の10年で何かを大きく転換させるということにはならないと思いますが、総体として申し上げますと、札幌市もついに人口減少局面を迎え、高齢者の割合が2040年には4割超となることを見込まれておりますので、いかに持続可能な都市経営を行っていくかが重要な課題になってくると認識しております。機能の集積、拠点化を図りながら、いかに郊外の暮らしやすさを維持していくか、守っていくかという課題に挑んでいく10年間になるであろうという認識です。

本日ご用意した資料3については、どこの地区でどういうことが行われるという具体的なところまではまだ整理をしておりませんので、総体としての話が中心になりますことにあらかじめご了承をいただければと思います。

それでは、資料3です。

まず、基本目標18の「コンパクトで人にやさしい快適なまち」に属する目指す姿1として、「都市空間の種別に応じた土地利用と四季の変化が感じられる良好な景観の形成などにより、多様なライフスタイルを実現できる魅力あるまちになっています。」に向けた施策についてです。

丸の一つ目では、多様なライフスタイルを実現でき、札幌らしい魅力あるまちの実現に向け、土地利用計画制度の適切な運用や地域特性に応じた景観の形成を推進すること、丸の二つ目では、市街化調整区域における自然環境の保全を前提に、個々の地域特性を踏まえながら、産業や観光、文化芸術、スポーツなどの機能集積や高度化も見据え、各種規制の運用を見直すことなどにより、限定的な土地利用を促進することを掲げております。

次に、目指す姿2の「『地域交流拠点』では、商業・サービス機能や行政機能など多様な都市機能の集積が進み、快適な交流・滞留空間や歩きたくなる空間が形成され、様々な活動が行われています。」に向けた施策についてです。

丸の一つ目として、各拠点の特性を踏まえた民間開発の誘導、公共的な空間の利活用などの促進を掲げております。

丸の二つ目として、都市機能の集積に向けて、区役所などの主要な公共施設は、地域交流拠点への配置を原則とし、老朽化した施設の機能集約等を進めることを掲げました。

次に、目指す姿3の「『複合型高度利用市街地』では、集合型の居住機能と多様な生活利便機能が集積し、『一般住宅地』では、多様な居住機能と生活利便機能が調和を保って立地し、『郊外住宅地』では、地域特性に応じた生活利便機能が確保されたゆとりある良好な住環境が維持されています。」に向けた施策についてです。

丸の一つ目としまして、身近な生活圏域を範囲とした小規模なコミュニティエリアの形成による地域活性化に向け、小・中学校を中心とした地区会館、児童会館などの地域コミュニティ施設の複合化や日常生活に必要な機能配置などを行うことを掲げました。

丸の二つ目として、公共施設の建て替え、再編などと連携した地域まちづくりの推進やエリアの魅力向上に向け、民間活力の導入も見据えた公共施設の跡地、後施設の利活用やみどりの創出を行うことを掲げております。

一番下の丸になりますが、一般住宅地や郊外住宅地では、持続可能な住環境の形成や地域の魅力創出のため、地域まちづくりルールの策定やまちづくり活動への支援、地域と行政の協働による地域まちづくりの取組のほか、総合的な空き家対策を行うことを掲げたところですが。

その他の施策は記載のとおりです。

次に、資料の右上にお移りください。

目指す姿4の「四季を通じて、誰もが快適に利用でき、環境にもやさしい移動環境・手段が整備されることにより、公共交通を軸とした持続可能でシームレスな交通ネットワークが確立されています。」に向けた施策についてです。

丸の一つ目として、公共交通を軸とした持続可能でシームレスな交通ネットワークの確立に向け、地下鉄や路面電車の利便性向上やバスネットワークの維持に向けた取組のほか、交通結節点における乗り継ぎ機能の強化、移動の円滑化などを行うことを掲げております。

その他は記載のとおりです。

○高野部会長 それでは、基本目標ごとに質疑を行います。

基本目標18の「コンパクトで人にやさしい快適なまち」についてお願いいたします。

○牧野委員 基本目標18の目指す姿2の下の充実強化することのところに居心地がよく歩きたくなる空間形成の推進とありますが、この歩きたくなるというのが漠然とし過ぎていてイメージが湧きづらいので、具体的にどうしたら歩きたくなる空間となるのかをもう少し提示できればいいかと思います。

私に置き換えてみると、車椅子でも歩ける、通れるものを想像するのですけれども、歩きたくなるだけではなく、これからは高齢者がどんどん増えていきますので、歩いていたら休みたくなることもあると思うのです。親と一緒に長い距離を歩いていると、必ず座りたい、休みたいと言っていました。そういう場所がないと歩きたくなくなるとも思いますので、歩きたくなるにプラスして、休憩を取りながら回れるような空間づくりも大切だと思いました。

○高野部会長 また研究を続けていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

ほかにいかがでしょうか。

○山中委員 一応入っているのだけれども、もう少し大きく取り上げるべきだろうと思うことがあります。

基本目標18と基本目標19の両方ともビジョンの行政と市民、企業の最初の項目にまちづくりに関する計画などの策定と推進とあって、市民、企業のほうにまちづくりに関する計画の策定やエリアマネジメントなどへの積極的な参加とあります。これに対応するのは基本目標18で、目指す姿3の丸の中に市民と行政の協働による地域まちづくりというのがありますが、これはもう少し大きく捉えてほしいと思っています。

コンパクトで人に優しいまちをつくるためには、当然、住民が主体的に考える必要があって、むしろ行政はそれを支える側に回ったほうがいいぐらいなのです。長期的な、常設の住民の話合いの場があって、それを行政がサポートするようなイメージですよね。そういうものがあると、世界を引きつける魅力ある活力あるまちとして認知されるだろうし、先ほどのところの世界に冠たる環境都市においても、そういうところでCO<sub>2</sub>を減らしたり、コンパクトにしたりするということで、世界に冠たるまちにつながるかと思います。

つまり、住民主体でまちづくりをする、そういうまちであるということがコンパクトで人に優しい快適なまちだし、世界を引きつける魅力だし、世界に冠たる環境都市なのです。



最後のところの丸ポツで書いているような小さい話ではなく、総合的な空き家対策を行うということと紛れるような話ではなく、もっと大きな考え方をここで見せてほしいし、だから戦略ビジョンなのだとなるよう、ぜひとも検討してほしいと思います。

○高野部会長 ほかにございますか。

○岡本委員 目指す姿1の景観の形成についてです。

これまでの景観の担当の皆さんの努力もあって、景観まちづくりの仕組みで地区計画まで至った場所があると記憶していますし、ほかのところでもまちづくり指針を設定し、どんなまちにしたいか、住民主体で進めてこられた経緯もあると思います。このように、地元の皆さんの意見を中心に景観をつくっていけるのです。札幌らしさに加え、地域らしさを読み込み、それを守っていきましょうという行動ができるのですと伝わるような書き方にしてほしいです。

土地利用計画制度については敷地整序型土地区画整理を考えられているのかなと思うのですが、その場所の景観の特性を誰が読み込むのかは少し気になります。景観と一口に言っても、後ろに山並みが見える、家の周りの花壇に同じ花が咲いているなどを含め、近景、中景、遠景とあるので、その読み込み方のキーワードも入っているのが望ましいと思います。

また、目指す姿3の集合型居住についてです。

今、地下鉄駅周辺等やJR駅周辺等で分譲マンションがたくさん供給されています。それはいいのですが、その後のマンションの管理がかなりネックになってくると思っています。今、老朽化しているマンションでさえ歯抜けになって、マンション管理が著しく悪い状態になりかねないところも増えてくる可能性もあるでしょうし、管理不全マンションという言い方も既にあります。そういうことも考えると、ただ集合して住む空間ができれば便利でいいですよという書き方だけではなく、管理についてちゃんとサポートするなり、要点を伝えるなりして、自立してちゃんとマンション建物の面倒を見る大切さが分かるキーワードなりを入れるとか、住まいの維持管理も念頭に追加することが必要かなと思いました。

○高野部会長 ほかにいかがでしょうか。

○椎野委員 目指す姿3の丸の一番上の、小・中学校を中心とした地区会館、児童会館などの地域コミュニティ施設の複合化や日常生活に必要な機能配置についてです。

そもそも、人口構成がある程度維持できている地域であれば対策ができると思うのですが、もっと進んだところです。昨今、札幌市内でも小学校の統廃合が間違いなく進んでいます。人口がすごく増えているところもありますが、全体としては人口減少や少子化に向かっていて、統廃合も進んでいるような状況かと思います。

ただ、段階というか、フェーズみたいなものが恐らくあって、この段階であればこういう対応ができるけれども、もっと人口減少が進んだ地域については、何か別の施策、市民を交えて対応が必要ということもあろうかと思っています。その大まかな戦略というのでし

ようか、並列ではなく、この段階ではこういう対応が考えられますという書き方ができるといいのかなと思いました。

また、その場合、札幌市内でもいいですし、他地域でも他都市でもいいと思うのですが、先進的な事例も具体的にお示しできるのであれば、市民としてもイメージが湧きやすいかなと思いましたので、具体的な事例を交えるとよりいいのかなと思いました。

○高野部会長 私からです。

目指す姿4の四季を通じてというところの丸の一つ目にシームレスな交通ネットワークの確立という記述がありますよね。地下鉄や路面電車、バスということですが、先ほどからも出ていますように、バスよりももっと短い区間での移動手段ですよ。シェアサイクル、札幌だとペロタクシーというものがあります。雪のない地域では、非常に小型の、いわゆる電気自動車とまでは言えないですが、1人乗りの移動器具が普及しているところもあって、先ほど牧野委員からもお話がありましたけれども、そこに出かけるときになかなか歩けない人も含めて、シームレスというのは非常に大きな足から本当にちょっとした移動までを含めた移動手段の組合せですよ。札幌は積雪が非常に多いので、冬になってしまったら、自転車でも夏に快適なところでも、吹雪の中、雪をこいで行かなければならないというふうに極端になってしまうわけで、では、何ができるのかというのは難しいのですが、四季を通じたシームレスというのは非常に重要な概念だと思うので、小さな移動手段も含めて記述すべきだと思います。

また、道路除雪というのはどこに書き込まれているのですか。

○事務局（中本企画課長） 分野がまたがっているのですが、生活・暮らし分野と前にご議論をいただいた分野横断的施策のスマートの中で雪を特出しして整理しております。

○高野部会長 市民の注目度は非常に大なるものがあって、何ができるかというのはコロナ以上に難しい話だと思うのですが、特出しして分かるようにしていただく、それは施策との対応関係なのかもしれませんが、非常に重要です。この文面だけを読むと、ここで除雪の話が出てきてもおかしくないですよ。

基本目標18についてほかにかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○高野部会長 それでは、基本目標19のご説明をお願いいたします。

○事務局（中本企画課長） 基本目標19の「世界を引きつける魅力と活力あふれるまち」に属する目指す姿1の「『都心』では、民間投資と共鳴した新しい時代にふさわしい高次の都市機能の集積が進んでいます。また、快適な交流・滞留空間やみどりの創出、移動環境の充実により、魅力的でうるおいのある歩きたくなる都心が形成されるとともに、データや先端技術の活用などにより、イノベーションが創出され、新しい価値が生まれ続けています。」に向けた施策についてです。

丸の一つ目としまして、民間投資とノウハウを活用しながら土地の高度利用と都市機能

の更新を図り、持続可能で魅力のある都心を形成するため、再開発の誘導、調整や、エリアマネジメントの支援を行うことを掲げています。

丸の四つ目では、都心のまちづくりを支える公共交通体系の強化や、居心地がよく歩きたくなる空間の形成に向けて、路面電車の延伸の検討や新たな公共交通システムの検討を進めるとともに、歩行環境の改善、地上、地下の重層的、かつ、安全・安心な歩行空間の整備による回遊性の向上、快適な滞留空間を創出することなどを掲げました。

下から二つ目の丸では、みどり豊かな潤いのある都心を形成するため、公園や道路などにおけるみどりの整備、改善に取り組むほか、再開発等の機会を捉え、官民連携による効果的なみどりの創出や、まちづくり団体などとも連携しながらみどりのネットワーク化を推進することを掲げたところです。

その他は記載のとおりです。

資料をおめくりください。

目指す姿2の「『高次機能交流拠点』では、国際的・広域的な観点を持った産業や観光、スポーツ、文化芸術などの都市機能の高度化と集積が進み、国内外問わず、多くのヒト・モノ・投資・情報呼び込んでいます。」に向けた施策についてです。

高次機能交流拠点における都市機能の高度化や集積に向けて、民間開発を誘導するとともに、民間活力を生かしながら必要な都市基盤・施設の整備などを行うことを掲げております。

次に、目指す姿3の「『工業地・流通業務地』では、操業環境の保全や土地利用の再編、低未利用地等の適切な活用などにより、老朽化した施設の更新や機能の高度化・複合化が進んでいます。」に向けた施策についてです。

工業、流通業の業務継続に向けて、土地利用計画制度の適切な運用などにより、老朽化した工場等の施設の更新や、機能の高度化、複合化を支援するとともに、建て替え、増設に必要な工業用地を求める事業者とのマッチング支援などを行うことを掲げております。

次に、目指す姿4の「広域交通ネットワークの充実・強化により、道内の都市や観光地を始め、国内外の地域とのつながりが深まり、新たな交流が促進され、さっぽろ圏はもとより北海道全体の社会経済活動が活発化しています。」に向けた施策についてです。

道内の都市や観光地をはじめ、国内外の地域とのつながりを深めるため、創成川通の機能強化や丘珠空港の利活用促進など、人や物の移動の円滑化に係る取組を行うことを掲げております。

○高野部会長 それでは、基本目標19の「世界を引きつける魅力と活力あふれるまち」についていかがでしょうか。

○岡本委員 都心はすごく気になっています。景観の切り口があまり強調されていないのが残念だということが一つです。また、地上、地下の空間の協調みたいな話については、

「重層的かつ」と書いてくれていますが、目指す姿の中に地上と地下の協調が文言として入ってくるぐらい必要と思っています。

景観について言うと、例えば、ちょっと思い出してほしいのですが、現在はJRタワーから大通の方向を見ると創世スクエアでテレビ塔が見えないという状況です。一方、よいほうで言うと、大通東2丁目を開発する話が出ていたとき、大通4丁目通りから見たときにさっぽろテレビ塔の中段の展望台を超えない高さに抑えてほしいというお願いをして、検討していただいたということがありました。景観的にさっぽろテレビ塔に対してどう配慮するかという取組もあったのです。ただ、全体として、札幌のまちを感じる、札幌らしいなどと思う景観を担っているところに配慮が行き届いていないように感じます。

具体的には、大通のテレビ塔から大通公園を見た景観ですが、これからどんどん変わっていくことになると思いますし、かなりのボリュームのものが出てきたりもするでしょう。駅前通から設定されている壁面60メートル程度以下というストリートウォール形成の話があって、通りとしての景観形成への配慮はあるのですが、眺望点という景観形成への配慮がありません。札幌らしいな、札幌と言ったらどういう絵を思い浮かべますか、札幌を思い浮かべる絵との関係がすごく強いところに関しては、より適切な景観の管理というか、よい方向での成長をちゃんと見守っていかないとなりません。民間が活力を導入してくださるのはすごくよいのですが、民間のお金でやっているから何も言えないという状態になりますと、本当にぼこぼこのまちになりかねないのです。その取り合いをどうしていくかといったとき、景観はかなり大きなワードになると僕は思っているので、都市景観の持つ役割をもう少し明確に丸印で出していただき、札幌らしさを担っている景観については、より札幌らしさの魅力が高まるように積極的に調整していきますという話を載せていただきたいと思います。

今後、ただ開発ができるから札幌に来て、敷地を買って、どんとお金を投資して、テナントで貸せるという企業に来てほしいわけではきつくないですよ。今後、100年、150年と続いていくときに、札幌の魅力はこうあるからと札幌のまちの魅力向上に貢献し、それが自分の企業のブランドイメージにもつながっていくのだと考えられる方々に本当は来てもらわないといけません。開発しました、貸し出しました、収益が上がりました、では、いなくなりますという人たちが来られるとすごく困るので、そのキーワードとして景観や眺望点の設定というのはすごく重要だと思いますから、そういうところに踏み込んで記載してほしいなと思います。

うまく伝わったかどうか分からないですけども、そういう気持ちです。

○事務局（中本企画課長） 非常に重要な視点でのご指摘かと思しますので、お預かりさせていただいて、検討したいと思います。

また、地上、地下のご指摘もいただいていたかと思しますので、そちらも含めて検討したいと思います。

○高野部会長 ほかにいかがでしょうか。

○山中委員 専門ではないのですが、岡本委員の意見に本当に賛同します。

例えば、今ここに出ている写真について、新幹線はいいにしても、隣のJRタワーより

高いビルが建つことを望んでいるように読めるのですね。でも、これが本当に札幌らしいかというのは、もちろん、人々の価値観があって、景観の話がありますから、僕が意見を言うことはできないけれども、岡本委員の話に乗れば不思議だなと思うのですよね。素人ですが、これが札幌らしいまちづくりなのかということは疑問に思うということをおきます。

○高野部会長 ほかにいかがでしょうか。

○牧野委員 基本目標19の下の目指す姿4についてです。

道内の都市を結ぶための丘珠空港のことなども出ていますよね。丘珠空港はこれからどんどん活用されていくようなことを今検討しているようですが、飛行場を出てからのアクセスといいますか、どんな人にでもつながるような、それも忘れてはいけないことだと思います。

私も丘珠空港を使いたいと思うのですが、そこまでどう行こうかなと考えてしまうのです。あるいは、そこから戻ってくる時に車椅子で移動ができるかなど、これからは、社会の中の課題として、つながるということもぜひ頭に置いていただきたいと思います。

○高野部会長 ほかにいかがでしょうか。

○椎野委員 目指す姿1の居心地がよく歩きたくなるウォークアブルな空間形成の推進についてです。

ここに書かれているとおり、都心は非常にみどりが乏しいということが以前からずっと課題になっていて、今、都心のみどりづくりを札幌市でも進められておられると思いますが、その際に大事なものは、都心部なので、いろいろな機能が集約されており、便利な一面がある一方、実際に歩いて居心地がいいか、スムーズに移動ができるかもあるわけですが、そうではない側面があるのかなと思います。

特に、大通公園というか、都心部のところで、マイカーなど、交通の流入をどうコントロールするかについて、施策があって盛り込めるのであれば、それも併せてお示しいただいたほうがいいかなと思います。

また、大通公園については、今、連続化が話題になっていますけれども、非常にスムーズなウォークアブルな空間形成の推進には有効かとは思いますが、もちろん、全部の公園をつなぐのは現実的ではないと思いますが、非常に可能性のあるところで、市民も快適に歩けるようなところについては連続して空間を広げていく、みどりをつなげていくという考え方もこの中に盛り込んでもいいのかなと思いました。

○高野部会長 私からは、目指す姿4の広域交通ネットワークについてです。

北海道、札幌の国際会議の夏と冬の季節ごとの開催件数を調べると、当たり前かもしれませんが、本州と比べると北海道は冬に国際会議をほとんどやらないのです。それは、何も真冬に国際会議をやる必要はないということもあるのでしょうかけれども、万が一、飛行機が止まってしまったら大変なことになるので、冬に国際会議を開かないというのは当然の選択だということですね。

でも、広域交通ネットワークで求められるのは安定性なのです。でも、空港を常に開けておけるということにはなかなかならないので、場合によっては、国内になりますけれども、新幹線と飛行機の代替関係、それから、情報提供や乗換えをスムーズにするような仕組みなど、冬の広域交通ネットワークの安定性を高めることは非常に重要な施策だと思います。

ここではそういうことまで書き込まれていないのですが、特に冬季における長い足の安定性を戦略的にいろいろな形でやるべきと私は思っているので、ご検討をいただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○山中委員 横断型な視点だと思うのですが、こういうところになると、CO<sub>2</sub>というのか、環境に優しいということが消えているように見えるのです。例えば、都市の基盤整備とあるのだけれども、環境に配慮した都市の基盤整備など、何かを入れていただかないと、ここはここでそういうイメージに捉えてしまうという疑問が湧きます。

○高野部会長 ほかにいかがでしょうか。

○岡本委員 目指す姿2の白丸のところ、今、少しありましたが、必要な都市基盤・施設の一連の文章に、民間開発を誘導するとともに、民間活力を生かしながらと書かれていますよね。イメージを共有しておきたいのは、敷地内だけで民間の活力を活用するのではなく、敷地をはみ出し、例えば、道路の下でも力を合わせて利用していくということがあるかと思います。敷地の中だけで完結させ、そこで活力を生かしてくださいではなく、都市の構造、都市の基盤とまで書いていらっしゃるのですから、道路下の地下通路などに民間のお金を導入して、バックには何か仕組みが必要だとは思いますが、トータルで都市の利便性が高まる、あるいは、環境への配慮が高まるということを考えていただきたいのです。そのため、もうちょっと広い範囲での民間と行政との関わり方といいますか、敷地ラインを超えて設定できるよう、少し自由度を高めて進められることが必要だと思ったので、発言しておきます。

○高野部会長 要は、民間ビルの地下を新たな地下通路でつないでいこうという発想が実際に動いているので、それをより現実化しようということですね。検討方、よろしく願います。ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○高野部会長 よろしければ、基本目標20に移ります。

ただ、時間の関係がありますし、生活・暮らし分野の基本目標5の目指す姿2と目指す姿4も関係あるので、こちらも見ただけだと思います。完全につながるわけではないのですが、そのようにして、ご意見をいただきたいと思います。

それでは、ご説明をお願いします。

○事務局(中本企画課長) まずは、資料3の続きの基本目標20からご説明を申し上げます。

資料の右上をご覧ください。

基本目標20の「都市基盤を適切に維持・更新し、最大限活用するまち」の目指す姿1として、「道路、交通施設、上下水道、公園、河川、廃棄物処理施設等のインフラや、住宅、事務所、区役所、学校、スポーツ施設等の建築物は、老朽化のほか、必要な機能や人口動態、地域の特性などを踏まえ、計画的な維持・保全・更新・再配置・複合化が行われ、誰もが快適に利活用しています。また、ICTや先端技術の活用により、効率的な維持・保全や施設規模の適正化などが行われています。」に向けた施策についてです。

丸の一つ目として、都市基盤の維持更新に係る費用を縮減、平準化するため、将来の人口動態などを見据えるとともに、ICTや先端技術なども活用しながら、公共のインフラや建築物の効率的かつ計画的な維持更新などを行うことを掲げています。

丸の二つ目として、所有者等による分譲マンションの適切な維持保全等に向けて、専門家の助言等を受けられる体制づくりや管理適正化推進計画の策定などにより適切な管理を促すことを掲げました。

次に、目指す姿2の「公共施設では、整備や運営・維持管理などに関する積極的な官民連携により、市民ニーズ・社会経済情勢を捉えた多様で柔軟なサービスの提供が行われています。」に向けた施策についてです。

老朽化した区役所など、公共施設の更新に合わせ、民間活力やノウハウを活用しながら、施設の集約化、複合化、効率的かつ効果的な配置、整備などを行うことを掲げました。

次に、目指す姿3の「道路や広場などの都市基盤等の空間が有効に利活用され、まちにゆとりやにぎわいが生まれています。」に向けた施策についてです。

丸の一つ目として、道路や広場などの公共的な空間において多様な活動やにぎわいを創出するため、空間の有効活用を見据えながら施設のリニューアル等を行うほか、丸の二つ目として、人中心の居心地がよく歩きたくなる空間を形成するため、官民の都市基盤や未利用地などの空間の利活用を促進するとともに、安全、快適に滞在できる空間などを創出することを掲げてございます。

その他は記載のとおりです。

都市空間については以上となります。

続きまして、参考資料の4ページの生活・暮らし分野についてです。

基本目標5の「生活しやすく住みよいまち」に属する目指す姿2の「建物や道路などのバリアフリー化やユニバーサルデザインの導入が進み、誰もが円滑に移動することができ、快適に利用できる環境が整っています。」に向けた施策についてです。

今後、高齢者人口が増加することが予想され、また、札幌市は障がいのある方にとって地域で暮らしやすいまちであると思う方の割合が横ばいであるという課題がございまして。さらには、市内で暮らす外国人が増加していくことが予想される中で、ハード面のバリアフリー化やユニバーサルデザインの導入を推進していく必要があるという考えの下、整理をしております。

丸の一つ目では、四季を通じて誰もが円滑に移動することのできる環境の整備に向け、地下鉄駅などの旅客施設や、道路、学校などの公共施設のバリアフリー化を進めるほか、タクシーやバス乗り場等の冬季の乗り継ぎ機能の強化を検討することを掲げました。

丸の二つ目では、民間施設等のバリアフリー化を進めるため、ノンステップバスやユニバーサルデザインタクシーの導入を支援するとともに、民間建築物のバリアフリー化を支援することを掲げています。

丸の三つ目では、誰もが快適に利用できる環境の整備に向けて、区役所庁舎の待合スペース等へのユニバーサルデザインの導入、また、表示の多言語化を進めることを掲げました。

丸の四つ目では、バリアフリー情報のさらなる発信に向けて、地下ネットワーク等においてユニバーサルデザインにも配慮した案内サインを充実させるほか、公共施設等のバリアフリー情報をオープンデータ化し、新たなサービスの開発を促進するなど、民間企業と連携した取組を推進することを掲げたところです。

次に、資料の右側をご覧ください。

目指す姿4の「市民・企業・行政の連携やICTの活用などにより、市民の多様な暮らしを支える交通環境が保たれているとともに、持続可能な除排雪体制の下で冬季の道路環境が確保されています。」に向けた施策についてです。

丸の一つ目として、運転手不足や利用者の減少等によりバスの運行便数が減少した地域がある中で、地域特性に応じた交通環境の維持確保に向け、公共交通の利用を促進するとともに、乗合バスの路線維持に取り組む事業者を支援するほか、地域にとって望ましい公共交通ネットワークの在り方を検討することを掲げています。

また、丸の二つ目では、雪対策について、従事者の不足など、今後の除排雪体制の維持に課題を抱える中、冬季の道路環境の維持確保に向け、ICT等を活用した作業の効率化、省力化や、担い手の確保に向けた取組を進めるほか、バス路線排雪や歩道の凍結路面对策の強化を継続するとともに、雪堆積場のさらなる確保を検討するなど、大雪時の対策を強化することを掲げました。

最後に、丸の三つ目では、雪対策における市民などとの協働の推進に向け、関係機関と連携して、多様なツールを活用した広報や啓発を行うことを掲げたところです。

説明は以上となります。

○高野部会長 基本目標20と参考資料の4ページの生活・暮らし分野の基本目標5の目指す姿2と4についてご説明をいただきましたが、これについてご意見をお願いします。

まず、私から基本目標20の目指す姿1についてです。

ご承知のように、2030年に向け、札幌駅前を中心に非常に大規模な開発工事が集中的に行われます。戦略目標で工事中の話をするのもなんですが、かなり長期にわたることもあり、いわゆる建設事業中のアセスメントといいますか、例えば、バスターミナルも使えなくなるし、駅前地区が今とは違う形でほとんど商業施設が使えなくなったり、一部使



えたりするのですけれども、非常に使いにくくなったりします。

しかし、そうした事業中でも、市民生活をはじめ、観光で訪れた人たちにあまり大きな負の影響が出ないような、それを和らげるようなこと、そういったマネジメントが非常に重要だと思うのですね。特に、今回のように、駅前地区でこんなにたくさんのプロジェクトが集中的に行われるということはありませんでした。それをどう表現するかはあれなのですけれども、非常に重要なことだと思っております。

ほかにいかがでしょうか。

○岡本委員 目指す姿2の「公共施設では」についてです。

よくよく考えると、行政の文書や手続きがかなりデジタル化されていくとか、印鑑がなくなるといった話になっているわけですが、そこにICTの話がきくと出てくると思うのです。そして、前にもお伝えしたかもしれないが、空間ボリュームがこれまでほど要らなくなるわけです。集約化、複合化という表現にしてくださったと思うのですが、大切なのは有効活用です。ただ小さくすればいいよねという話もあるかもしれないですが、余った空間をより有効に使っていく、市民の皆さんの暮らしの利便性がより高まったり、豊かさが高まったりする方向に使っていくということも考えられるので、デジタル化による手続等の変化とそれから生まれてくる余裕空間の積極的な活用についてももう少し表現されてもよいと思いました。

○高野部会長 DXというか、オンラインでの仕事、在宅勤務が増えてくると、逆に、第3の場所というか、自宅でそれら全部を賄うと精神的に大変なことになるので、サードスペースが非常に重要になっているということがありますし、そういう活用はどんどんやられています。それがどこに書いているかは分かりませんが、これからの都市機能としてはすごく重要でして、そういうところにうまく使っていただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○椎野委員 目指す姿3の二つ目の丸の人中心の居心地がよく歩きたくなる空間を形成するためというところは、人の視点で大変いいなと思ったのですけれども、一方、下の写真は赤れんがテラスのところでしょうか。要は、公園や公共空間など、人が滞留するような場所ではないところの利用を促していくということなのか、公園以外ということなのか、つまり、歩行者専用道路の活用を進めるといいますか、そういうところを開拓していくということなのですか。ありそうな場所は想像ができるので、それ以外の場所も含めて広げていけるといいなと思います。

また、先ほどから出ている冬ですね。冬に屋外を歩きたい人は、観光で来られている方以外はあまりいないと思うので、例えば、創生スクエアのように高校生なんかも自習で利用できる場所など、屋内でも使えるような空間を民間の組織や何かにもぜひ呼びかけていくなど、冬季も利用できるような屋内の空間も含めて検討されるといいのかなと思いました。

○高野部会長 基本目標20と参考資料の4ページのバリアフリーの観点からのことにつ

いてほかにいかがでしょうか。

○牧野委員 参考資料にたくさん出ているバリアフリーという言葉についてです。

今、札幌市では民間公共的施設バリアフリー補助事業などが行われています。既存のものを直すという意識は進んできているのかと思うのですが、新しくつくったお店でもバリアフリーではないところがよくあるのです。これはどうにかならないのかなと思っています。

既存のものは仕方がないとしても、新しくつくるものにバリアをつくってしまうというのは、札幌の建物やこれからのまちづくりを考えたときにどうなのかと日頃から思っていました。建築確認や申請の段階に確認することはもちろん、設計者の人たちにももっと知ってもらうということが必要だとすごく強く感じています。

○高野部会長 例としてどことおっしゃる必要はないのですが、公共施設ですか、それとも民間の施設ですか。

○牧野委員 公共の施設は基本にのっかってバリアフリーなものがつくられていますけれども、例えば、民間の小さなカフェや居酒屋、飲食店、レストランなど、新しくつくったものなのに段差があるところがあるのです。地下に入っていくようなところは仕方ないですが、平面にある建物でもわざわざ段差をつけているところがあって、びっくりしてしまうのです。それを何とかなくしていけないものかと考えています。

○高野部会長 岡本委員、都市計画の審査のときには基準法しかないのですものね。

○事務局（中本企画課長） バリアフリー法では、義務づけられているものとそうではないものがある、小さい規模の施設だと努力義務になっていて、事業者の判断になるのかと思います。ただ、そこは大きな課題だと我々も認識しております。

特に新しいものなので、ちょっとした心構えというか、僕の個人的な思いを込めますけれども、知識の問題なのかなという印象もありますが、行政からの情報発信もしていかなければならないなと思いを新たにしました。

○高野部会長 戦略的なものとしては重要ですね。

基本目標20と参考資料について、参考資料に雪の話も書いていただいているということですが、ほかにいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○高野部会長 もしよろしければ、全体を通じてご意見をいただきたいと思います。

環境分野、都市空間分野、生活・暮らしの一部、さらには、ほかの分野のことで結構ですので、もし何かお気づきの点やご意見があればご意見を出していただければと思いますが、お気づきの点等はありませんか。

○岡本委員 都市空間の分野で気になっていることをお伝えしておきます。

先ほどの景観の話に加えて、仕組みとしては当然継続していて、まちの改善につなげるための容積率緩和による誘導があって、容積率緩和による誘導策で引っ張っていき、まち

の在り方を変えていこうという仕組みになっています。ただ、もうちょっと先を見ていくと、もしかしたら容積率緩和による誘導はあまり効果がなくなっていくのではないかとも思っています。それよりも、暮らしなり、まちの楽しさなり、過ごしやすさなりを定量的に把握できる別の指標を見つけ、容積を上げるのではなく、別の側面を評価して、何らかの形で優遇と言うのも変ですが、ここに来たらよりよいことがあるというあめ玉を変えていかないといけないと思っています。

今のようなたくさん床があれば貸せるからいいよねというロジックではない新しいロジックを札幌として見つけ、日本の中でも先行して展開できるようになると望ましいと思います。今走っている仕組みもありますが、並行して検討していただけたらありがたいと思います。

○高野部会長 それは私も共感するところに大なるものがあります。特に、先ほども言いましたけれども、駅前の開発なんかはどんどん床を積み上げるわけですけれども、本当に積み上げた分の床にテナントが入ってくれるかどうかということがあります。人口が減ったり、インバウンドの状況がこれまでとは全然違うトレンドになったりしたとき、非常に不確実性が高くなるような気もするわけです。

札幌は床を積みばどんどんと商業者が入ってくるという大前提の下に開発が行われていますが、どこかで次の段階のことを考えておかないと大変なことになってしまうかもしれないということですよ。それはすごく重要だと思います。どこに書き込むかという話ではないと思うのですけれども、底流としては重要なことかなと思いました。

全体を通してほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○高野部会長 それでは、以上で審議を終了とさせていただきます。

進行をお返しします。

### 3. 閉 会

○事務局（浅村政策企画部長） 本日は、長時間にわたりまして、多岐にわたる活発なご議論をありがとうございました。

全体として、多分野にわたる横断的な施策に関することをどう工夫して記述するかは課題かなと思っています。今回お示しした資料については、あえてというか、ほかの分野に関わることはほかのところでも記述している部分もあるので、そこを抜いたものをお示ししているのですけれども、最終的に計画として策定していくときには8分野の中でも横断的になるものがある一方、前回、ご議論をいただいた重要概念であるウェルネス、ユニバーサル、スマートという三つの分野と、その三つの分野の中でも横断しているものもあるし、8分野との関係においても紐づけされているようなものもあります。ただ、それら全てを書くとかかなりボリュームが増え、かえって分かりにくくなるかもしれませんので、事務局で整理をさせていただきたいと思いますが、最終的には、今日ご議論をいただいたことの

思想というか、理念みたいなものがどこを読んでもしっかり分かるようにしていく必要があるのかなと思います。

また、今日は、理念的なことから具体的なことまで、かなり幅広いご指摘をいただきましたが、議論をいただいている戦略編は総合計画の中で最上位に位置づけるものとなりますし、10年間、札幌市の施策の方向性として基本になるものとなります。そして、それに基づいて各分野における個別計画が策定され、実施計画であるアクションプランが具体的にどういう事業をどういうボリューム感でやっていくのかを定める作業も残っております。どの部分に生かしていけるのか、つぶさに一つずつ検討していく必要があるかと思えますけれども、今日は各分野の施策を担当している部局にも直接議論を聞いてもらい、参考にさせていただいていますので、今後はどの段階で生かしていくかも含めて検討を進めていきたいと考えてございます。

それでは、次回の会議に関するご案内を企画課長からさせていただきます。

○事務局（中本企画課長） 次回は、審議会、いわゆる全体の集まりの場を9月頃をお願いしたいと考えております。ノーザンクロスから改めて日程調整をさせていただきますので、引き続きどうぞよろしく願いいたします。

事務局から以上でございます。

○高野部会長 それでは、以上で終了とさせていただきます。

ありがとうございました。

以 上